

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401699		
法人名	有限会社 介護サービス郷の家		
事業所名	グループホーム郷		
所在地	札幌市手稲区前田5条15丁目2番8号		
自己評価作成日	平成26年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が、残された時間をゆったりと穏やかに過ごし共に暮らしていけるよう、スタッフ一同心がけています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170401699-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム郷」は、バス停から徒歩で5分ほどの住宅地に立地し、2階建て1ユニットのグループホームである。建物は周囲に溶け込んでおり、学生寮を改築した生活空間は移動の安全性を確保している。2階への移動に階段昇降機を設置しているが、半数の方は階段を使い運動になっている。開設10年目に入り、グループホームを開設した運営者の精神を引き継いで、利用者が地域の一員として自分らしい暮らしができるように支えている。地域とは自然な近所付き合いを大切にし、畑の収穫物を近所にお裾分けしたり、また近隣や家族からの差し入れがあるなど身近な交流が行われている。近所の独居高齢者に何かあれば事業所で駆けつける支援を町内会と話し合い、災害・緊急時の協力体制を整えている。利用者の個別の必要に応じて成年後見人制度を活用し、安心して暮らせるように他機関とも連携している。施設長を兼務している管理者は職員の資質向上のため、スタッフ会議でテーマごとに勉強会を設け、外部研修の希望も可能な限り取り入れている。新人研修などの各マニュアルも整備されている。利用者がゆったりと自立した暮らしが継続できるように、朝の散歩や個別の外出支援も積極的に行っている。健康に留意した食事作りや好みを反映して食生活を楽しめるように工夫し、家庭的な暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時より、地域の中で見守られ、生活することを理念として支援してきた	地域で利用者が生き生きと過ごせるように支援する内容の理念があり、パンフレットや要所に掲示して周知している。業務などで忙しい時は、特に「ゆったり」対応が出来るかを振り返り、意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者一人一人が町内会の会員となり、参加できる行事にも積極的に行っている	利用者は町内会の子供神輿の訪問を楽しみにしている。昨年は感染症の予防で、外部者と交流する機会を少なくしている。畑の収穫物を近所にお裾分けしたり、ゴミ収集場所の掃除に利用者も参加して行うなど、自然な近所付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所住人から声かけ、訪問をしてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、幅広く認知症についての理解を家族や地域の方に求め、学習しており、外部評価の取り組みについても報告している。入居者OBの御家族の参加もよくある。	2か月毎に開催し、各報告や事業所の取り組みについて意見を交換している。防災のテーマでは消防署員の参加も得ており、特に防火や感染対策を強化し話題にしている。全家族に会議案内と議事録を送付し、毎回2～3名の家族が参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ、サービスの取り組みの報告や相談、助言など、協力関係を築いている	管理者は市や区に頻繁に出向いて顔馴染みの関係を築いている。今年度はスプリンクラー設置を相談し、工事を行っている。利用者の状況に沿って介護保険課や生活保護課の各担当者との確認や連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて日頃から話し合い、玄関は日中施錠しないよう工夫し、身体拘束は行っていない	「禁止の対象となる具体的な行為」の11項目を明記し、身体拘束禁止のマニュアルを整備している。研修会に参加し拘束の弊害や言葉遣いを学んでいる。昨年は夕方の不穏症状で危険な状況から、車椅子に安全ベルトの装着が必要になり、家族の同意書を得て経過を観察している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会、学習会への積極的参加をし、虐待防止に努めている		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、数名の成年後見制度の利用をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に御家族、OB御家族に参加してもらい、意見を求めている	毎月担当職員が本人の暮らしをお便りにして、個人別に送っている。家族の来訪が頻繁にあり、その際に報告して意見を聞いている。話し易い雰囲気に対応し、家族からの差し入れ品をノートに記録し利用者に還元している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、毎朝のミーティングを行い、その中で実施している	申し送り後のミーティングや、月に数回分けてスタッフ会議を行い、全員が内容を共有できるように配慮している。職員からの面談希望やメールで意見をいつでも表明できるようにしている。「スタッフノート」に記録している提案なども現場に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情、条件を満たせるようなシフト、給水ができるよう、心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ、研修に参加できるよう機会を設け、資格取得のための助言、シフトの考慮を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲地区の管理者会議や、研修の機会に同業者との交流ができるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に面談し、快適な暮らしができるような環境が提供できるか、話し合いの中で検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望には十分耳を傾け、話を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合ったサービスを検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護をしながら、人生経験豊富な入居者さんから様々なことを学んでいる		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回以上の来所をお願いし、こまめに情報交換し、共に支える関係を相談、助言などしながら築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんにより、知り合い、親戚等の交流を積極的に応援している	以前に住んでいた近所の友人や宗教関係者の来訪がある。趣味の仲間が来訪した際には利用者と一緒に出かけることもある。自宅への送迎や近くの店の買い物に同行し、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業、レクやゲーム等にできるだけ参加できる場を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への訪問、家族の相談等受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向をできるだけ尊重している	落ち着かない時は居室で思いをじっくり聴いている。発語が難しい場合は目の表情をみて言いたいことを把握している。家族からの情報を参考に、変化などは個人記録に追加しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしに関し、本人や家族、近所の方に情報をいただき、介護職員全員の共通の認識としている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化や有する力には、特に力を入れて把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状に即したケアのために、関係医療機関、家族、本人との話し合いをできる限り行い、計画に反映している	介護計画を3か月～6か月期間で見直し、課題分析から評価を行い更新計画を作成している。計画書と一緒に「ケアプラン計画表」を送付し、家族の意向を確認している。「24時間生活変化シート」に介護計画と連動した日々の記録を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを作成し、情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望、要望にできるだけ応えるよう、柔軟な支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事には、できるだけ参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族と相談し、希望の機関にかかれるように支援している	利用開始時に受診先を確認し、協力医療機関の内科は月1回、歯科は月2回の定期往診を受けている。専門的な他科受診や緊急時には、ほぼ職員が同行し家族に報告している。往診記録や受診記録に内容を記載している。	

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の同行看護師と日ごろから連絡をとり、情報交換をし、協力している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、頻りに面会し、病院関係者との情報交換を密にし早期退院に向け協力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については早めに家族、本人と話し合い、できる範囲を説明し、支援している	利用契約時に、契約書「医療上の必要への対応」の中で、重度化した場合や終末期の対応について説明している。状態の変化に応じて関係者で話し合い、対応可能な範囲で支援している。話し合いの内容を記録し方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生時の初期対応の訓練を定期的に行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている	昨年は消防署立会いで夜間を想定した避難訓練を行い、近所の住民も参加している。災害時には誘導後の見守りを地域と話し合い、事業所の駐車場を一時避難場所とし、近隣住民の避難場所にも提供している。地震などは今後の課題になっている。	火災以外の地震などを想定し、事業所内での安全確認やケア別の対応について職員間で話し合う機会を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、言葉かけには指導している	新人研修や外部研修で利用者への接遇等について学び、職員は優しいトーンで話しかけている。就業心得に個人情報規則を明示し、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認してから支援するよう、指導している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気に入る服装ができるようにし、女性らしさのお手伝いができるよう支援している		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合った食事を用意するようにし、作ったり、片付けたりしている	利用者の好みを反映したメニューを職員が献立し、化学調味料を控える食事作りを基本としている。出汁から作るラーメンやウニ・イクラ丼など、大変好評である。利用者は玉ねぎの皮むきや食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は、毎日記録をつけ、不足の生じないよう、対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、本人の力量に合った支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を目指す支援を行っている	排便をチェックし、体調管理を行っている。利用者の半数が排泄面で自立しているが、誘導が必要な場合は「24時間生活変化シート」にも状況を記録しながらさりげない声かけを行い、適切な対応をとっている。トイレも4か所あり、行きたい時に行ける態勢である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いもの、十分な水分、運動などで自然排便を目指すとともに、排便記録をつけ、便秘にならないよう、下剤も併用してコントロールしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の生活リズムに合った時間帯で支援している	木曜日以外の曜日で午前中に対応している。身体が重度化の利用者も2名介助で支援し湯船に浸かっている。一番風呂を好む方が複数いるので、曜日を決めたり、本人が寛げるようにゆっくりと入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、休息、安眠できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の副作用、用法について日ごろから理解するよう指導し、情報も各スタッフがすぐに確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に気分転換を図れるように努力している		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にできるだけ添えるように支援している	今年度より朝8時の散歩を取り入れている。近隣を散歩したり、歩くことが好きな方は少し離れた公園へ足を延ばしている。大型店舗への買い物にも積極的に出かけている。花見や紅葉狩り、ドライブで雪まつり見学にも行っている。花壇や畑などでも外気浴を楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせ、家族と相談しながらお金の使用を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように工夫している	お食事処のダイニングスペースと、寛いだりレクリエーションをする2つの空間がある。玄関はすのこを敷いて上り壇の面積を確保したり、階段の昇降機やトイレの数が多いなど、利用者が使いやすいような設備と工夫をしている。レトロな雰囲気合う切り絵などの装飾も落ち着きがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、居間、食堂など、好きな時に自由に利用できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込むようお願いしている	以前から使っていた家具、家電製品や大切な品々が持ち込まれ、利用者の好みや使い勝手に応じて置かれている。上下段の間仕切りがある扉のない開放型のスペースは、大きな収納場所となっており、物が目に入る利点があり、有効に活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昇降機など活用し、できるだけ自立して生活できるように工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 郷

作成日：平成 27年 1月 27日

市町村受理日：平成 27年 2月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の地震などを想定し、事業所内での安全確認やケア別の対応について職員間で話し合う機会を期待したい。	火災訓練とは別に、災害に関する(地震、暴風雨)避難訓練を実施する。	災害を想定して、季節ごと(4、7、9、12月)に職員主導の上、地域住民、ご家族のご協力を募り、マニュアルに基づき、避難訓練を繰り返し行う。なお、この避難訓練を記録に残す。	一年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。